

日中国際交流協會報

協会報第 2014-4号 2014年5月10日 発行所一般社団法人日中国際交流協会

編集人 長谷川 隆淑・中村 陽

4月には今年1月～3月の第1四半期を総括した経済指標が発表され、GDPは予想を上回り7.4%を維持し、安定の中で成長する年度経済目標の範囲にあり、工業企業利益は前年比10.1%増・失業率4.08%と云う低い水準の保持・豊作による安定した物価水準等々、今年の経済が良好にスタートしていると報じている。又4月は陽光の春期を迎え、中国各地で伝統行事の清明節（先祖の墓まいり）があったり、博鳌アジアフォーラム年次総会等が開催されたりしています。それらに関連して最近の墓地事情、博鳌アジアフォーラムで集まった世界のトップ指導者と中国政府首脳との会談などを中心に博鳌関係5項目、その他2～3の注目すべき他の報道を抜粋しお届けいたします。

目次；海江田会長の寄稿文

最近の中国お墓事情

博鳌アジアフォーラム年次総会関係5項目

中日韓3か国の共通漢字808文字

次期経済5か年計画準備始動

【海江田万里の政経ダイアリー】2014.5.12号 最近の中国の対外姿勢に思う

最近の中国の対外姿勢に思う

TVに映った中越の公船の衝突の映像を観て、4年前、わが国の海上保安庁巡視船と中国漁船の衝突事件を思い出した国民は多いだろう。あの事件以来、日本と中国の関係が冷え込んだままである。5月11日、ミャンマーで開かれたASEAN首脳会議では、中国の名指しこそはさけたものの「脅しや武力行使によらない平和的解決を求める」との声明を発表した。これは至極当然なことだ。

私は、1975年の初訪中以来、毎年必ず複数回中国を訪問しており、数えたことはないがおそらく訪中回数は100回を超えていると思う。そんな私が昨年一度も訪中しなかった。もちろん民主党代表という立場もあったが、中国の対日感情の悪化に嫌気がさしていたからだ。しかし、最近、機会を見て訪中して、中国の党や政府の人々としっか

話し合いをしてきたいと思うようになった。中国側に最近の中国が採っている外交政策は私たちには「覇権主義」としか映らないということ伝えたい。かつて中国がソ連と対立していた時に、ソ連の対外政策を「覇権主義」と厳しく糾弾して、「霸道はだめだ。中国は王道を歩み、永遠に覇を求めない」と当時の指導者から何度も聞かされた。日本語では、「覇」という言葉には、「彼は覇気がある」などと言って、積極性を評価し、さほど悪い意味ではない。早稲田大学の第二の校歌といわれる「紺碧の空」には「覇者、覇者、早稲田」という歌詞もある。一方、中国語での「覇」は「(1) 強力をもって支配する(2) 暴力をふるう、荒っぽい」の意味で使われる。「霸道」の反対語が「王道」である。

もちろん、中国の現在の指導者は自分たちの歩んでいる道が「霸道」だとは、認めないだろうが、私たち日本国民だけでなくASEAN諸国の国民も、「中国は覇権主義だ」と考えていることは確かだ。中国も今や日本をしのぐ経済大国になったのだから、大国として王道を歩んでほしい。又日本も正すべきは正さなければならない。特に、靖国神社の参拝問題では「総理・官房長官・外務大臣は参拝しない」ということを1985年、当時の中曽根首相の参拝後の日中間の話し合いで約束しているから、これは守らなければならない。

もうひとつ、最近の日本、中国双方の政治指導者に欠けている点は、お互いの経済発展にとってお互いが必要不可欠だという認識である。アメリカのオバマ大統領が、米中の経済関係を重視していることは先日の訪日の際の共同声明でも明白だった。

現在、中国の経済も胸突き八丁の苦しい局面にあると思う。日本も成長戦略を実現する為には中国の成長を促すことが大切だ。経済面ではお互い、ウイン・ウインの互惠関係を築ける客観的な情勢は存在する。このことを両国とも冷静に考えるべきで、わが国について言えば、最近の安倍政権は「政治過多」というより「安保過多」になっていると思うのは私だけではないはずだ。

衆議院議員 海江田万里

- 中国のお墓事 -

伝統的な墓参り行事「清明節」4月7日から3日間が連休となり、全国各地で延べ1221万1千人・車両168万1千台が移動した様である。お墓参りと併せ各地の観光スポットも賑わい、北京市内150ヶ所観光地への人出は、昨年比36.8%増の524万人に達している。仏教寺院が累代先祖の供養と共に墓地の大半を供給・管理している日本と異なり、中国では通常郊外の宗教とは無関係な小高い丘陵や村落の里山に土饅頭状の墓所を設け埋葬することが一般である。最近では都市化による生活の充実向上に伴い先祖の供養を大切にする経済的余裕が生まれ、墓地に対する需要が急増し庶民の手に負えない高い金額で「死後も行く場所がない」等の墓地問題が各地で注目され、墓地の価格高騰と

大都市周辺が墓地で包囲され不当に土地資源を圧迫するなど多くの問題が起こり、新たな埋葬方法が模索されている。

民政省は清明節を控え、葬送方式の改革を提唱し、経費の節約、環境の為に土地の節約、古い習慣を改め、花壇葬・樹木葬・海洋葬など「エコ葬」を推奨しており、北京市では海洋葬の全費用を政府が負担する政策をとっている。

南海省の博鳌（ボ - アオ）フォーラム（Ⅰ）

博鳌アジアフォーラムが10日開幕し、李克強首相が「アジア発展の新たな未来を共に開こう」と題する基調講演を行い、現在世界は深い変化の中にあり、グローバル経済の回復は遅れ困難な状態である。アジアの国の多くは発展途上にあり、経済発展・民政改善の任務は依然として大変困難であるが、世界で最も活力のある地域で経済発展のカギとなる時期を迎えていると述べ、更に下記の3提案を示した。

1．共同発展の方向を堅持し、アジア利益共同体を築く。アジア各国は同舟相救い、困難を共に乗り越え、経済の補完性を相互支援力に変え、利益の融合点を絶えず発展させる。 2．アジア運命共同体など融合発展の大きな枠組みを築き、インフラの相互接続を推進し、産業の深い協力と優位性の相互補完を促進する。 3．平和的発展の環境を守り、アジア責任共同体を築き、アジア地域の安全保障協力の枠組みを模索する。

次に李首相は、中国は平和を愛し善隣友好の周辺外交政策を進め、自国の領土主権を守る意志は固く持ち、紛争を平和的手段で解決することを主張し、周辺諸国と共に地域の繁栄と安定を図っていくことを願っている。又現在中国経済は安定したスタートを切り全体的に良好である。しかし上向くための基礎がまだ固まって居らず下振れ圧力が依然として存在する複雑な情勢に直面している。冷静に観察し、事前の準備に力を入れるなど主体的に働き掛け、財政面での総量の均衡を図り、構造の最適化に目を向け、情勢の変化に応じたコントロール政策を合理的に調整し、的を絞って重点措置を行って行く。経済の一時的動きで短期の強い刺激策を採ることなく、中長期の健全な発展に力を入れる。今後打ち出す一連の改革促進・構造調整・民生優先の政策と措置が安定成長の持続を促し、我々の経済を合理的範囲に維持する能力と自信があることを示す。等々を強調している。

更に李首相は、今後一定期間、中高速成長を維持し向上させる発展の持続的

原動力として下記3点を強調している。1) 行政の簡素化と権限委譲の改革を積極的に推し進め、ネガティブリスト管理方式を模索し、政府権限のチェックリスト制度の確立、上海と香港の株式市場の取引相互接続など高いレベルの対外開放、等々の改革。2) 人を中核とする新しいタイプの都市化計画を実施し、サービス業の遅れを急いで取戻し、バラック住宅地区の大規模改造を進め、長江の黄金水路と重要な内陸交通幹線に依拠した新経済支援ベルトの育成、等々の構造調整。3) 人口13億で世界一の消費市場があり、積極的に就業と起業のバクパップする政策と租税減免を実施し、所得を持続的に増加させ、社会保障制度の整備を進める。等々の民政改善。

同フォーラムの開会式には理事長の福田康夫元総理が歓迎挨拶し、豪州のアボット首相、韓国の鄭烘原首相、ラオスのトンシン首相、ナミビアのガインコブ首相、パキスタンのシャリフ首相、ロシアのドボルコビッチ副首相、ベトナムのブードクダム副首相、東チモールのチャナナ・グスマン首相が出席している。

博鰲にて李克強総理：パキスタン・シャリフ首相の会談（ ）

4月10日、海南省博鰲（ボ・アオ）で会見し、李総理は「中パ運命共同体」構築に重要な中パ経済回廊建設について長期計画をまとめ、優先プロジェクトとして好スタートする様に金融支援をしていくと述べた。シャリフ首相は、古い友好の歴史で結ばれた全天候方の友人であり、パキスタン外交の礎石である。双方が調印した協定を実行に移し、パ中経済回廊の建設に取り組み両国人民に幸せをもたらして行くと宣言している。

博鰲にて李克強総理は韓国の鄭烘原首相と会見（ ）

4月10日午後、李総理は鄭首相と会談し、中韓関係は政治面の相互信頼、経済面の互惠ウインウイン、深く良好な人文交流を背景に、オランダのハーグで行われた習近平主席と朴槿恵大統領とのトップ会談、今回鄭首相とはここ博鰲（ボ・アオ）でハイレベルの交流が出来、両国関係は好スタートを切っていると述べ、中韓自由貿易協定（FTA）交渉は重要な段階であり全体的な利益バランスが取れた高レベルの合意に達し、一日も早く両国民に恩恵をもたらすことを望んでいると表明している。

鄭首相は、両国は文化も似ており地理的に近く、高いレベルの交流が盛んで、深い関係を築いている。韓国は中国と共に指導者の共通認識（コンセンサス）を実行し、FTA交渉を急ぎ両国の経済発展・繁栄を促進することを願っている。

ると述べている。

博鰲にて李克強総理と東ティモールのグスマン首相と会談（ ）

4月9日午前、両首相は海南省三亜市で会談、李総理より、昨日北京で習近平主席とグスマン首相は実り豊かな会見をされ様に、中国は相手国の大小・強弱・貧富とは無関係に、相互尊重と平等互惠を踏まえ協力発し発展していくことを一貫として主張している。発展途上国同士であり経済発展・民生改善・貧困撲滅の任務を担って居り、農業・エネルギー・人文など各分野の実務協力を深め、国土の大きさや文化・制度の異なる国同士が友好的に付き合う手本とする事を望んでいると李総理は述べている。

博鰲（ボアオ）にて日中CEO対話（V）

11日、博鰲（ボアオ）アジアフォーラムで、中日CEO対話会議が開かれ、参加している日本の経団連副会長兼事務総長である中村芳夫氏が記者会見で、近年日中の経済・貿易関係にさまざまな障害が見られたが、緊密であることに変わりなく日本企業界は中国との経済・貿易協力の強化を前向きに遂行する強いシグナルを発信していると強調した。又過去1年、投資と貿易の両方が減少したが、ビジネス界では良好な関係が継続されている。世界第2位と第3位の日中両国の経済体は今後環境保護・医療健康等の新しい産業分野でより多くの協力が行われると述べた。

中国側の国際貿易促進委員会の于平副会長は、中日の経済・貿易協力の潜在力は両国の企業家によって認識されており、今後の交流と理解を一段と深め、より多くのビジネスチャンスを探る必要を強調した。

その他トピクスー

日中韓3国が808文字の共通常用漢字；この構想は2010年日本の奈良市で開催された第5回東北アジア賢人会議で中国人民大学学長の紀宝成氏が初めて提唱し、その後3か国の関係者が4カ年かけて研究し、今年4月22日「日中韓共通常用808」として発表された。プロジェクトチームのメンバーである中国人民大学古代漢語教育研究処の趙形助教授によれば、選ばれた漢字は3国でよく使われ、中国の「現代漢語常用801文字」・日本の「教育漢字710と常用漢字98=808文字」・韓国の「中学漢字801と高校漢字7文字=808文字」から引用され、共同常用の基準に合い、表意文字の漢字を覚えれば言葉は出来なくとも街の看板や表示はその80%が理解可能である。漢字は3国の歴史文化

遺産であり、文化交流の重要な絆でもあり、貴重な共通財産である共同常用漢字の普及がアジア文化の伝承と繁栄に大きな役割を果たすことが確認された。

第13次5か年計画の準備； 来年2015年までをカバーする第12次5か年計画に代わり、2016年より採り入れる第13次5か年計画の準備がスタートしたニュースです。中国国家発展・改革委員会の徐紹史主任が次期国民経済・社会発展5か年計画（2016～2020年）の編成作業会議を招集しその始動を宣言した。徐主任は、2012年11月の第18回共産党大会で習近平主席が統べる新政権が成立した以後、中国の発展は新たな段階に入り、チャンスと試練のリスクにも直面している。世界経済の成長、国際的分業、世界の投資、貿易ルール、エネルギー、資源配置、地政学的環境などに深い変化が起きている。中国は新たにより高いスタート地点に立ち小康（でゆとりのある）社会を完成させる壮大な目標を実現する為、全面的な改革を深く進め大きな成果を上げて経済発展パターンの転換で実質的な進展を確保する「13・5」計画編成は重大で深遠な意義があると述べた。

更に、中長期の計画は国の統治システムと統治能力の近代化を進める手段であり、深く変化する国内と国際状況を見据え、改革深化の歴史的責を踏まえ、時代と共に計画の性格・機能の位置づけ及び編成の方法・内容・手順・表現形式など大胆に刷新することを強調。更に世界的な視野と戦略的考え方を深め、市場と政府の関係を正しく処理し、計画の目標・指標を科学的に設定し、市・県の計画体制改革を推進し、民主的で透明な計画編成に留意し、一層時代の要請に即し、発展の法則に合致し、人民の意思を反映することを求めている。

以上

